

《当評論：解りにくい問題に對する他評論及び小生論考文での補足》

<p>【『新漢語の問題』　近代化試論】</p> <p>参照：「テキストP9」と「テキストP8」の相關關係。</p>	<p>【演劇論と人生論の一一致：「役者修業は人間修業」の2】『醒めて踊れ』『せりふと動き』他より。 http://www.geocities.jp/sakuhinron/page016.html</p>
<p>P 455 「言葉を、殊に新漢語を、その意味を碌に辨へずに使つてゐると、思考の混亂と道徳心の荒廢をもたらし、さういふ危険は今日その極に達してゐる」とは</p> <p>P 457 「一語一義の新漢語は核家族（即ちテキスト十一圖にあらず）とすら言ひかねる孤立したもの。（中略）まして思想や人格は成立し得ない」とは</p>	<p>「テキストP12」上圖参照・・・《言葉（観念）に呑み込まれてゐる場合、場との適切な距離間も喪失してゐる爲、対象の價値觀を丸飲み状態になる。即ち、「思考の混亂と道徳心の荒廢」に = 適應異常。そうならない爲にはP12下圖参照・・・</p> <p>「言葉と話し手との間に距離を保ち、その距離を絶え間なく変化させねばならぬのと同様に、相手と共に造り上げた場と自分との間にも距離を保たねばならず、その距離を絶えず変化させ得る能力がなければいけない。さういふ能力こそ、精神の政治学としての近代化といふものなのである」（『醒めて踊れ』 p 398）</p>
<p>P 459 「それが出來なかつたのは近代戦といふハードウェアに對應するソフトウェアの近代化が出來てゐなかつたからである」 「精神の近代化」の缺如</p>	<p>手順方法の缺如・・・「科学製品は輸入できても科学精神は移植できなかつた」（「近代日本文学の系譜」）</p>
<p>P 459 「（ハードウェア）を處理する手段、方法、組織としてのソフトウェアを有機的に機能せしめる段になると、吾々は今まで常に適應異常を起し續けてきた」</p>	<p>「西歐近代國家」實現と言ふハードウェアを處理する手段、方法、組織としてのソフトウェアである「帝國主義を日本はうまく使ひこなせなかつた云々」的表現（=適應異常）</p>
<p>P 461 「壁が無くなつたのではなく、見慣れた昔の壁が毀れてしまつたお蔭で、壁といふものが一切見えなくなつてしまつた。・（壁の）自覺がない事くらゐ始末に負へぬ適應異常はない」・・・とは。</p>	<p>科学製品を輸入出来て貧困の壁が無くなつたが、「科学製品（ハードウェア）は輸入できても科学精神（ソフトウェア）は移植できなかつた」（「近代日本文学の系譜」）事の彼我の差について自覺がない。・即ち「テキストP9」と「テキストP8」の差の自覺缺如。</p>
<p>P 461 （「テキストP12」参照） 「言葉（F）が文化（D1）を支へ、思考力や道徳や人格を支へ、その崩壊を食ひ止め得る唯一の財産だといふ</p>	<p>P 1 （「テキストP12」参照）場面から生ずる「關係（D1：心の動き）を形のある『物』（E）として見せるのがせりふ（F）の力学」（「せりふと動き」）・・・</p> <p>P 7： 「（E）フレイジング・So called」で言</p>

<p>自覺の切掛けすら持たぬ人達が多くなつたからである。なほ始末の悪い事に、さういふ人達が自分にも意味不明な死語に近い新漢語や外來語を操りながら、しかもそれを死語と自覺せずに物を書き、それを生業とする傾向がひどくなつて來た。これもまた『言論の自由』といふ近代的概念に對する適應異常の一種である」・・・とは。</p> <p>更に、</p> <p>P 4 6 2「言葉に對する適應異常こそ近代化失敗の末期症狀である。それを克服する以外に、思考力の衰退や道徳觀の頽廢を食ひ止め、人間回復への緒を見出す方法は他にあるまい」</p> <p>・・・とは。そして、前文を含め「適應異常」克服の方法はどのようにしたらよいのかと、恒存は右項目の様に提言するのである。</p>	<p>葉（F：せりふ）と自己との距離を、「形ある『物』にして把握し、それを目に見える様に見せる（E）」（=適應正常）ことによつて、場との關係（D 1）をそこに具現するといふことに。即ち、話し手の心とせりふの字面との「距離（E）」の長短を測定し、長短の表現（言葉の用法）で關係性を表す。といふことに。</p> <p>別な言ひ方をすれば、せりふの力学（距離の長短操作 = フレイジング・So called）で、心の動き（關係）を的確に把握（適應正常化）すると言ふ事である。</p> <p>要するに、「場との關係と言ふ實在物（D 1）を潜在物であるせりふ（言葉（F））を使ひ、そのしゃべり方（E：せりふ廻し・フレイジング・So called）で形化して見せる」と言ふことに他ならない。「なぜなら關係と称する實在物は潜在的には一つのせりふ（問答・対話・独白）によつて表し得るものだから」。（圖参照（「テキスト P 1 2」）</p>
<p>P 4 6 2「（死語に近い言葉に妥協してゐる事）の意識も無い重寶な賣文業者」・・・とは、右項目と関聯。</p>	<p>『演劇的文化論』P 4 0 9 : 「ロジック、つまり自己國籍を殺した普遍的なものに日本人の聲を籠める事こそ（=眞の個性論参照）實は西洋化、近代化の最終目標なのだ。その意味では、西洋流の大よその學者のやつてゐる事は誤魔化し仕事」</p>